

<IPA 情報発信第 134 号の内容>

I. 今月のトピックス

1. 2014 年度未踏スーパークリエイターを認定

「2014 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」における「スーパークリエイター」として 7 名の認定を行い、6 月 18 日 (木) に経済産業省にて同スーパークリエイターたちとその成果を発表する記者会見を実施しました。

2. 「企業におけるサイバーリスク管理の実態調査 2015」報告書を公開

IPA は、企業におけるリスク管理の実態及びサイバー保険等の IT 関連保険の活用状況等を把握するため、企業の経営者やリスク管理責任者等に対して「企業におけるサイバーリスク管理の実態調査 2015」を実施し、その報告書を 6 月 30 日 (火) に公開しました。

3. 「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー」開催のご案内

IPA は 7 月 14 日 (火) に、九州経済産業局大会議室 (福岡市博多区) で共通語彙基盤説明会を実施します。九州からスタートして「共通語彙基盤」への理解を広げるための全国でのセミナーを開始しました。

4. SEC 特別セミナー「システムベースのエンジニアリング最新動向 複雑化するシステムの安全性とセキュリティを確保するためにすべきこと！」を開催

IPA は 6 月 18 日に、STAMP の権威であるナンシー・レブソン教授 (MIT) を招聘して講演を行った後、「日本における STAMP 活用の仕方について」というテーマでパネルディスカッションを行い、国内の事例紹介と議論を行いました。

II. セキュリティセンター

1. 「情報セキュリティ白書 2015」の発行
2. 7 月の呼びかけ「その秘密の質問の答えは第三者に推測されてしまうかもしれません」を公開
3. 重要なセキュリティ情報 (6 月)

III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「Embedded Technology West 2015/組込み総合技術展 関西」の出展および「IPA セミナー」を開催
2. 「つながる世界のソフトウェア品質ガイド」を発刊
3. 「ソフトウェア品質説明のための制度ガイドライン」に準拠した制度が DEOS 協会にて開始
4. 「SEC journal 第 41 号」を発刊
5. SEC セミナー開催報告 (6 月) および開催案内 (7 月)

IV. 国際標準の推進

1. 「自治体オープンデータ推進協議会 (関西会議)」を共催
2. 「情報技術に係るオープンな標準の評価基準 (ECOSS)」を公開
3. 「MJ 文字情報一覧表変体仮名編 (案)」を公開

V. IT 人材育成

1. 2015 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」採択プロジェクトの決定について
2. 「2014 年度未踏スーパークリエイター交流会」および第 21 回未踏 IT 人材発掘・育成事業「修了式兼スーパークリエイター認定証授与式」を開催
3. 「i コンピテンシ ディクショナリ 2015」および「i コンピテンシ ディクショナリ活用システム」を公開
4. ITPEC 試験問題選定会議の開催
5. 平成 27 年度春期情報処理技術者試験 (応用情報技術者試験、高度試験) の合格発表について
6. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を 7 月 13 日 (月) から開始予定

I. 今月のトピックス

1. 2014 年度未踏スーパークリエイターを認定

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 片岡)

IPA は、「2014 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」における「スーパークリエイター」として 7 名の認定を行い、6 月 18 日 (木) に経済産業省にて同スーパークリエイターたちとその成果を発表する記者会見を実施しました。

「スーパークリエイター」とは、未踏事業において特に卓越した能力を持つと認められた人材で、本年は 25 名のクリエイターの中から 7 名を認定しました。

記者会見では、テレビメディアでは在京キー局 3 社をはじめとする多数のメディア関係者が集まり、会見当日の夜にはニュース番組に取り上げられるなど、未踏事業への高い関心がうかがえました。

今回認定されたスーパークリエイターと、実施プロジェクトは以下のとおりです。

認定者名	所属	実施プロジェクト
稲垣 洸雄	筑波大学 知識情報システム専攻	Web 上の記事を用いたニュース動画生成システムの開発
岡田 侑弥 竹田 聖	慶應義塾高等学校	GUI のみによるマルチデバイス開発
神武 里奈	筑波大学大学院 知能機能システム専攻	ユーザの好みを反映したメイク手法推薦システムの開発
齋藤 隼介	早稲田大学 先進理工学研究科	任意キャラクターへの衣装転写システム
濱中 敬人	東京大学大学院 情報理工学系研究科	三味線演奏の総合支援アプリケーション
本多 達也	キヤノン株式会社	髪の毛で音を感じる新しいユーザインタフェースの開発

第 21 回 (2014 年度) 未踏 IT 人材発掘・育成事業「スーパークリエイター」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20150618.html>

2. 「企業におけるサイバーリスク管理の実態調査 2015」報告書を公開

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 伊藤)

IPA は、企業におけるリスク管理の実態及びサイバー保険¹等の IT 関連保険²の活用状

¹ 情報漏えいに伴う損害賠償に加えて、原因を特定するための調査費用、ネットワーク中断による利益損害等が補償される、サイバー攻撃に関する保険のこと。

² 本調査では、①コンピュータ故障に関する保険、②情報漏洩に関する保険、③サイバー攻撃に関する保険を「IT 関連の保険」と定義し、調査を実施した。

況等を把握するため、企業の経営者やリスク管理責任者等に対して「企業におけるサイバーリスク管理の実態調査 2015」を実施し、その報告書を6月30日（火）に公開しました。調査結果のポイントは、以下のとおりです。

- ・ 経営リスクに関する組織的対策を実施している企業は、IT 関連保険の加入率も高い
- ・ 情報セキュリティの事故経験者のサイバー保険認知度は 55.4%
- ・ データの復元やウイルスの除去費用等の保険ニーズが高い

「企業におけるサイバーリスク管理の実態調査 2015」報告書の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/fy27/reports/cyber-ins/index.html>

3. 「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー～“つながる”データ“つながる”システム～」開催のご案内

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：田代）

IPA は 7 月 14 日（火）に、九州経済産業局大会議室（福岡市博多区）で共通語彙基盤説明会「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー～“つながる”データ“つながる”システム～」を実施します。IPA は「共通語彙基盤」への理解を広げるための全国でのセミナーを開始しました。

IT 戦略である「世界最先端 IT 国家創造宣言」、それを受けた「電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプラン」等では、IT 社会にとって、そこで用いられる「データ」や「ことば」に統一性を持たせることが重要と指摘しています。これは、組織内での情報連携やオープンデータとして公開する情報の意味を誤解することなく、効率的に活用できるようにするためです。

IPA では、データで用いられる言葉の意味や構造を整理するとともに、それに基づいて情報を効率的に構築するためのツールの開発等を行う「共通語彙基盤」事業を推進しています。

本セミナーでは、効率的なオープンデータの構築を目指している先進自治体の事例を中心に、実際にどのようにして「データ」を活用していくかについてデモを交え説明します。今後、同様のセミナーを 9 月に、仙台、札幌、大阪でも実施する予定です。

地方公共団体や企業のオープンデータやシステムに関わる担当者、関連ベンダー、ソフト開発コミュニティ、データ構築コミュニティ等に係る皆様の幅広いご参加を期待しています。

本イベントの詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1042>

4. SEC 特別セミナー「システムベースのエンジニアリング最新動向 複雑化するシステムの安全性とセキュリティを確保するためにすべきこと！」を開催

(担当理事(本部長): 立石、担当所長: 松本)

IPA は、SEC 特別セミナー「システムベースのエンジニアリング最新動向 複雑化するシステムの安全性とセキュリティを確保するためにすべきこと！」を東京大学伊藤謝恩ホール(東京都文京区)で6月18日(木)に開催しました。

本セミナーでは、技術者、経営者、研究者などの情報システムに携わる全ての方を対象に、近年ますます大規模化・複雑化するシステムの障害・セキュリティ対策に関して、マサチューセッツ工科大学(MIT)の航空宇宙学部教授兼エンジニアリングシステム学科教授であるナンシー・レブソン(Nancy Leveson)氏を招待し、STAMP³の解説や適用事例について紹介するとともに、MITにおける先進の研究動向について講演を行いました。また講演のほか、レブソン氏に加えて4名の国内の有識者をパネラーとして迎えたパネルディスカッション「日本におけるSTAMP活用の仕方について」を実施し、産官学それぞれの視点で今後の実開発現場へのSTAMP活用における課題・留意点について討論しました。

当日は約200名の方に受講いただき、受講者からは「様々な事例・意見が具体的に紹介されていて参考になった」「システムの安全性・セキュリティの重要性が実感でき、手法に興味を持った」などの感想をいただいた一方、「前知識がないと理解しにくい」「個々の事例や手法を自社に適用できるくらいまで一般化・詳細化したセミナーや資料が欲しい」などの意見もいただきました。

IPAでは、これらの意見・感想を活かし、今後も特別セミナーの開催を継続していきます。

SEC 特別セミナーの詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150618.html>

II. セキュリティセンター

1. 「情報セキュリティ白書 2015」の発行

～2014 年度の情報セキュリティ分野の政策や法整備の動向、および標的型攻撃や内部不正の現状を解説～

(担当理事: 立石、担当センター長: 伊藤)

IPA は、国内外で発生した注目すべき情報セキュリティインシデントや新たな攻撃の手口、サイバーセキュリティ基本法の成立に伴う日本政府の取組みなど、情報セキュリティ全般に関する出来事や状況をまとめた書籍「情報セキュリティ白書 2015」を7月1日(水)に発行しました。

「情報セキュリティ白書」は、企業・組織のシステム開発者や運用者を対象に、情報

³ Systems-Theoretic Accident Model and Processes: システム理論に基づく事故モデルのことで、複雑なシステムに対する安全性解析手法の一つ。

セキュリティインシデントや攻撃の手口に関する現状、及び対策に役立つ情報を提供すること、また、パソコンやスマートフォンを使用する一般の利用者に対しても、身近にある情報セキュリティ上の脅威への認識を促すことを目的に制作しています。

「情報セキュリティ白書 2015」では、情報セキュリティ上のあらゆる状況を俯瞰し、情報セキュリティインシデントの具体的事例や攻撃の手口、政策や法整備の状況等を網羅的に取り上げています。特に注目すべきテーマとして、「組織における内部不正の現状と対策の動向」、「IoT の情報セキュリティ」、「深刻化する標的型攻撃に対抗する取組み」を掲載しています。また、2015年3月25日に公開した「情報セキュリティ 10 大脅威 2015」も第二部に収録しています。

「情報セキュリティ白書 2015」の印刷書籍版は、IPA、全国官報販売協同組合販売所及び Amazon から購入できます。

発行：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

印刷書籍版

電子書籍版（2015年7月下旬発行予定）

ISBN：978-4-905318-31-6

ISBN：978-4-905318-32-3

定価：本体 2,000 円（税別）

定価：本体 1,600 円（税別）

ソフトカバー／A4 版

「情報セキュリティ白書 2015」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20150701.html>

2.7月の呼びかけ「その秘密の質問の答えは第三者に推測されてしまうかもしれません」を公開

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：伊藤）

IPA は、情報セキュリティに関する7月の呼びかけを7月1日（水）に公開しました。呼びかけ内容は、以下のとおりです。

「その秘密の質問の答えは第三者に推測されてしまうかもしれません」

「秘密の質問」とは、「質問」とそれに対応する本人しか知らない「答え」を設定し、パスワードリマインダやインターネットバンキングでの本人を確認するための機能です。

2015年5月、Google社が「秘密の質問」に関する研究結果を発表したことが報じられました⁴。それによると、「秘密の質問は、それ単体でアカウント復旧の仕組みとして使用するには、安全性も信頼性も十分ではない」とされています。サービスの仕様にもよりますが、パスワードリマインダを使用した際に「秘密の質問」のみによる本人確認後、画面にパスワードがそのまま表示されることもあります。この場合、第三

⁴ ITmedia:「秘密の質問」が突破される確率は？ Google が調査
<http://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1505/22/news050.html>

者に「秘密の質問」の「答え」を当てられるとパスワードを知られてしまい、不正にサービスを利用されるなどの被害に繋がる恐れもあります。

今月の呼びかけでは、この「秘密の質問」を利用する上での注意点と、利用者に推奨する対策およびサービス提供者に求められることについて紹介します。

7月の呼びかけの詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/txt/2015/07outline.html>

3. 重要なセキュリティ情報（6月）

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：伊藤）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁵」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身のPCやシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

6月は、「緊急」4件、「注意」4件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター（SEC）

1. 「Embedded Technology West 2015／組込み総合技術展 関西」の出展および「IPA セミナー」を開催

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPAは、6月10日（水）、11日（木）の2日間、グランフロント大阪（大阪府大阪市）で開催した「Embedded Technology West 2015／組込み総合技術展 関西」（ET West 2015）に出展しました。ET West 2015は、一般社団法人組込みシステム技術協会（JASA）の主催による、製品・ソリューション展示やカンファレンスによって組込みシステム開発に関わる技術者や開発者に向けた情報発信を行うイベントで、日本の組込み業界をリードする企業などが多数参加しています。

今回の全体テーマは「IT→ICT→IoT で『人』と『モノ』をつなごう！」となっており、IPAでもこのテーマに沿った展示や講演を行いました。

IPAブースでは、これまでSECが取り組んできた事業成果や、現在取り組んでいる事

⁵ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

業について紹介したほか、セキュリティ関連事業や IT 人材育成関連事業、情報処理技術者試験などについてパネル展示を行い、広く IPA 全体の事業について紹介しました。

また、昨年秋の ET 2014 にて好評を頂いた、ソフトウェア開発などの先端技術や取り組みについて解説する初心者向けの少人数講座「SEC 先端技術入門ゼミ」も実施しました。

併設会場では、IoT 時代における高信頼化をテーマとした IPA セミナーを 2 日間で全 8 プログラム実施しました。

IPA ブースには、2 日間でイベント全体の来場者数約 5,400 人のうち約 3 分の 1 にあたる約 1,700 名の方にご来場いただき、ブースプレゼンと SEC 先端技術入門ゼミでは、開催 2 日間全 39 セッションで延べ約 1,200 名と、満席で立ち見の方がいらっしゃるほどの賑わいを見せました。

IPA セミナーは、全 8 回のプログラムには毎回約 50 名、延べ約 400 名の方に聴講していただきました。

来場者からは「資料の内容が充実しており、参考になった」「関西でのイベントやセミナーの開催を増やしてほしい」「パネルが見にくく、何をメインとしているのか解りにくかった」「ブースプレゼンの時間が短く、詳細な説明や具体例が不足していた」などの意見をいただきました。

IPA では、これらの意見・感想を活かし、今後もイベントへの出展を継続していきます。

「Embedded Technology West 2015／組込み総合技術展 関西」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20150610.html>

2. 「つながる世界のソフトウェア品質ガイド」を発刊

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、5 月 29 日 (金) に「つながる世界のソフトウェア品質ガイド～あたらしい価値提供のための品質モデル活用のすすめ～」を発刊しました。

本ガイドブックは、様々な製品やサービスが複雑に連携することで新たな価値を生み出す「つながる」システムについて、その価値を提供している近年の IT ビジネスの特徴と、そこで必要となる品質の考え方、および国際規格 SQuaRE⁶ の活用に関する基本的な知識を分かりやすくまとめたものです。製品・サービスの提供に携わる現場の技術者やリーダーだけでなく、企業の経営者にも役立つよう、2 部構成でつながるシステムにおける品質の考え方について解説しています。また、本ガイドブックは IPA 直販で購入頂けます。

本ガイドブックにより、つながるシステムに対する品質への理解が深まり、また SQuaRE の活用領域がさらに拡大することを期待します。

⁶ Systems and software Quality Requirements and Evaluation の略で、システム及びソフトウェア製品の品質要求および評価に関する国際規格 ISO/IEC 25000 シリーズ、および国内規格 JIS X 25000 シリーズの総称。

「つながる世界のソフトウェア品質ガイド」は、IPA で購入できます。

発行：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

定価：本体 926 円（税別）

「つながる世界のソフトウェア品質ガイド」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150609.html>

3. 「ソフトウェア品質説明のための制度ガイドライン」に準拠した制度が DEOS 協会にて開始

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、製品・システムの品質を第三者が確認する制度を設ける際の要求事項などを、公正性及び整合性の観点からまとめた、「製品・システムにおけるソフトウェアの信頼性・安全性等に関する品質説明力強化のための制度構築ガイドライン」（通称：「ソフトウェア品質説明のための制度ガイドライン」）を 2013 年 6 月に公開しています。

本ガイドラインに準拠して構築された、ディペンダビリティ⁷技術の認証制度である「DEOS 認証制度」を、一般社団法人 ディペンダビリティ技術推進協会（DEOS 協会）が、6 月 17 日（水）より運用を開始しました。

IPA は、今後もこのような形で本ガイドラインに基づく制度が多方面で構築され、普及展開されることを期待します。

「DEOS 認証制度」の詳細については、次の URL をご覧ください

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/21050617.html>

4. 「SEC journal 第 41 号」を発刊

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、SEC journal 第 41 号を 7 月 1 日（水）に発刊しました。SEC journal は、2005 年 1 月に創刊号発行以来、毎年 4 回発行しており、SEC の活動成果やソフトウェア開発に関する事例や論文を掲載しています。

SEC journal 第 41 号の主な掲載記事は、以下のとおりです。

- ・ 所長対談：IoT 時代のイノベーションを支えるエンジニアリング
IESE 所長 ディーター・ロンバック 氏
- ・ 論文：アーキテクチャ横断的要素に着目したトレーサビリティ確保によるアプリケーションライフサイクル高信頼性維持のためのアプローチ
- ・ 特集 SEC 活動概要
- ・ ソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業について

⁷ 信頼性(reliability)、保全性(maintainability)、可用性(availability)などを総合した広義の信頼性

SEC journal の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/secjournal/index.html>

5. SEC セミナー開催報告（6月）および開催案内（7月）

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

6月 は、次の日程で実施しました。

- ・ ETWest2015 併催：IPA セミナー（6月 10日、11日）

<http://www.ipa.go.jp/sec/seminar/20150610.html>

- ・【SEC 特別セミナー】システムベースのエンジニアリング最新動向
複雑化するシステムの安全性とセキュリティを確保するためにすべきこと！
（6月 18日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150618.html>

- ・ 共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～
（6月 24日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150624.html>

- ・ 定量的なプロジェクト管理・プログラム管理
～見える化による生産性・信頼性の向上～（7月 1日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150701.html>

7月 は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ アジャイル開発実践セミナー

「アジャイル型開発におけるプラクティス活用リファレンスガイド」の勘所と活用方法（7月 8日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150708.html>

- ・ 事例から学ぶ IT サービスの高信頼化へのアプローチ
～障害事例の分析から導かれた情報処理システム 高信頼化教訓集～（7月 10日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150710.html>

- ・ 「非機能要求グレード」実践セミナー
～システム基盤の非機能要件定義を講義と演習で身につける～（7月 15日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150715.html>

- ・ SEC 高信頼化技術適用事例セミナー
D-Case の適用事例に学ぶ、合意形成と説明責任（7月 17日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150717.html>

- ・ ESCR+ESPR 解説セミナー
～組み込みソフトウェア品質向上の土台を築く標準リファレンス～（7月22日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150722.html>
- ・ 『ゴール指向経営』 での的を射た IT 投資、利益を生む組織に
～「GQM+Strategies」の活用で組織内の整合性確保と定量的管理を実現～
（7月29日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150729.html>
- ・ IoT時代のセーフティ設計『見える化』
～今求められるセーフティ設計と見える化の技術～（7月30日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150730.html>
- ・ 第2回 定量的マネジメントセミナー（7月31日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150731.html>

IV. 国際標準の推進

1. 「自治体オープンデータ推進協議会(関西会議)」を共催

(担当理事(本部長): 立石、担当センター長: 田代)

IPAは、6月22日(月)に大阪イノベーションハブ(大阪府大阪市)で開催された「自治体オープンデータ推進協議会(関西会議)⁸」を共催しました。

本会議では、国立情報学研究所武田英明教授より共通語彙基盤コア語彙2(Ver2.2)の要点の紹介や、大阪市天王寺区や横浜市金沢区などの行政情報サービス構築に当たりオープンデータの構造化を行ってきた小林巖生氏より、共通語彙基盤の活用を含む「構造化」のコツを紹介していただきました。また、和歌山県、滋賀県、神戸市、大阪市より、オープンデータへの取組みおよび、共通語彙基盤の活用について紹介がありました。大阪市では、市が公開する情報を共通語彙基盤に基づく構造に一本化して整理したうえで、広報誌、Web ページ、データ公開ページ等、用途に応じて変換し、活用する方式の構築を開始しました。これにより、情報公開の効率が向上し、費用削減と品質向上が期待されるということです。

これらの取組みを参考として、各自体が共通語彙基盤を採用し、行政サービスが向上につながることを期待します。

「自治体オープンデータ推進協議会(関西会議)」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1038>

⁸ 主催: 自治体オープンデータ推進協議会(関西会議)、一般社団法人オープンコーポレイツジャパン

共催: 大阪イノベーションハブ、ODI Osaka、NPO 法人リンクト・オープン・データ・イニシアティブ、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

後援: 総務省近畿通信局、近畿情報通信協議会、オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構、一般社団法人オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、LOD チャレンジ実行委員会

2. 「情報技術に係るオープンな標準の評価基準（ECOSS）」を公開

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：田代）

IPAは、「情報技術に係るオープンな標準の評価基準（ECOSS⁹）」を6月29日（月）に公開しました。

本評価基準は、高水準のIT利活用社会の実現に向けて、オープンな標準に基づいた柔軟で相互運用性が高く外部データの利活用が容易な情報システム構築の促進および情報システムに係る製品／サービスの中立・公正な調達による情報システムのトータルライフサイクルコストの縮減を目指して、国際標準の推進事業の一環として作成した資料です。製品／サービスの計画、情報システム構築の基本計画に先立って行われるべき、組織が優先的に活用する技術標準の選定のための技術標準の評価に関する指針を提供しています。

「情報技術に係るオープンな標準の評価基準（ECOSS）」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/osc/20150629>

3. 「MJ文字情報一覧表変体仮名編（案）」を公開

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：田代）

IPAは、文字情報基盤ワーキンググループ並びに文字情報基盤検討サブワーキンググループでの議論を踏まえ、299文字の変体仮名をまとめた「MJ文字情報一覧表 変体仮名編（案）」を作成し、6月30日（火）に公開しました。

文字情報基盤整備事業は、平成22年度電子経済産業省推進費（文字情報基盤構築に関する研究開発事業）によりスタートした、行政で用いられる人名漢字等約6万文字の漢字を整備するプロジェクトです。

本一覧表について、6月30日（火）から8月21日（金）まで皆様からのご意見を募集中です。頂いたご意見を踏まえ、「MJ文字情報一覧表変体仮名編 Ver.001.01」を公開する予定です。さらに同一覧表に基づき、情報規格調査会を通し、変体仮名の文字符号を国際標準とする為の提案を行う予定です。

「MJ文字情報一覧表変体仮名編（案）」については、次のURLをご覧ください。

<http://mojikiban.ipa.go.jp/4436.html>

V. IT人材育成

1. 2015年度「未踏IT人材発掘・育成事業」採択プロジェクトの決定について

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：片岡）

IPAは、2015年度「未踏IT人材発掘・育成事業」の公募採択の結果を6月15日（月）に公開しました。

⁹ ECOSS: Evaluation Criteria for Open Standards and Specifications

応募のあった提案テーマについて、プロジェクトマネージャーがそれぞれの審査基準に基づき独自の観点で採択候補を審査・選定し、未踏事業審査委員会での審議結果を踏まえ 16 件のプロジェクト（クリエイター数：23 名）を採択しました。クリエイターの所属大学では、海外を含む地方 3 校の学生が未踏初挑戦での採用となり、未踏挑戦者は年毎に全国的広がりをみせています。

2015 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」の採択結果の詳細は、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2015/koubokekka_index.html

2. 「2014 年度未踏スーパークリエイター交流会」および第 21 回未踏 IT 人材発掘・育成事業「修了式兼スーパークリエイター認定証授与式」を開催

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：片岡）

IPA と経済産業省は、「2014 年度未踏スーパークリエイター交流会」および「第 21 回未踏 IT 人材発掘・育成事業『修了式兼スーパークリエイター認定証授与式（式典）』」を、6 月 27 日（土）にホテルサンルートプラザ新宿（東京都渋谷区）で開催しました。

本交流会は、2014 年度未踏スーパークリエイターと、未踏事業に興味をもっていた方々との間に交流の場を設けることで、2014 年度の未踏事業の成果をより深く知っていただくことを目的として開催しました。

交流会では、7 名の未踏スーパークリエイターによる未踏事業における成果のプレゼンテーションが行われ、その後には未踏スーパークリエイターと参加者との間で活発な質疑応答がなされました。その後スーパークリエイターのプロジェクト毎に設置したブースでは、参加者とスーパークリエイターとが自由に交流し成果をより深くご理解いただきました。

また、修了式では、統括 PM（プロジェクトマネージャー）の夏野剛氏が講演を行い、修了した未踏クリエイター達に熱いエールが贈られました。また、各 PM からは担当したクリエイターと実施プロジェクトの紹介があり、25 名の未踏クリエイターたちに修了証が手渡されました。引き続き行われたスーパークリエイター認定証授与式では、7 名のスーパークリエイターに認定証が授与されました。

当日の様子は夕方テレビニュースに取り上げられ、未踏事業をより多くの方に知っていただく機会となりました。

IPA では、本事業を修了した未踏クリエイター達の活躍が IT による社会の変革を興すことを期待しています。

本交流会および式典の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2015/juyoshiki_21th.html

3. 「i コンピテンシ ディクショナリ 2015」および「i コンピテンシ ディクショナリ活用システム」を公開

(担当理事(本部長): 田中、担当センター長: 秋元)

IPAは、2014年7月31日に公開した試用版における知識体系などの見直しに加え、「情報セキュリティ」「攻めのIT」など新時代に必要な人材育成に対応したタスク・スキルを追加した、「i コンピテンシ ディクショナリ 2015 (iCD 2015)」および利用者の利便性を高めることを目的に、新たにウェブ上で利用できる「i コンピテンシ ディクショナリ活用システム (iCD 活用システム)」を合わせて6月30日(火)に公開しました。

iCDは、企業においてITを利活用するビジネスに求められる業務(タスク)と、それを支えるIT人材の能力や素養(スキル)を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化¹⁰したもので、企業は経営戦略などの目的に応じた人材育成に利用することができます。

iCD2015 および iCD 活用システムの公開を通じて、企業をはじめ産業界全体においてますます活用が進み、IT人材に求められる能力や知識が社会全体で共有化されることを期待します。

iCD2015 および iCD 活用システムの詳細については、次の URL をご覧ください。

i コンピテンシ ディクショナリ 2015

http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/index.html

i コンピテンシ ディクショナリ活用システム

http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/system.html

4. ITPEC 試験問題選定会議の開催

(担当理事(本部長): 田中、担当本部長補佐: 小川)

IPAは、6月10日(水)~6月12日(金)にマニラ(フィリピン)で「ITPEC 試験問題選定会議」を開催しました。

本会議には、ITPEC 参加7カ国の試験実施機関の試験委員など28名が参加し、「第20回アジア共通統一試験」(2015年10月25日(日)実施予定)で使用する試験問題の精査・選定などを行いました。アジア共通統一試験は、ITPECの参加各国が、アジアにおける質の高いIT人材の確保や流動化を図ることを目的として年2回実施しています。

本会議の検討の結果、次回試験では各国で作成した試験問題は次の通り出題されることになりました。

- ・基本情報技術者試験相当: 午前試験全80問中29問、午後試験全8問中8問
- ・応用情報技術者試験相当: 午前試験全80問中18問、午後試験全7問中3問

¹⁰ タスクとスキルを、それぞれ辞書のように参照できる形で構成してまとめたもの。iCD2015では「タスクディクショナリ」は、タスク3階層と評価項目(約2,600項目)の計4階層で構成。「スキルディクショナリ」はスキル3階層と知識項目(約9,500項目)の計4階層で構成。

IPA は、ITPEC 参加各国が質の高い試験問題を作成できるよう、今後も協力していきます。

5. 平成 27 年度春期情報処理技術者試験（応用情報技術者試験、高度試験）の合格発表について

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：山城）

IPA 情報処理技術者試験センターは、平成 27 年度春期情報処理技術者試験（経済産業省所管、4 月 19 日（日）実施）のうち、応用情報技術者試験と高度試験の合格者を発表しました。

各区分の応募者数、受験者数、合格者数、合格率は以下のとおりです。

	応募者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
応用情報技術者試験	47,050	30,137	5,728	19.0
高度試験				
プロジェクトマネージャ試験	17,360	11,050	1,485	13.4
データベーススペシャリスト試験	15,355	10,049	1,767	17.6
エンベデッドシステムスペシャリスト試験	4,627	3,458	573	16.6
情報セキュリティシステムスペシャリスト試験	27,339	18,052	2,623	14.5
システム監査技術者試験	4,012	2,740	388	14.2

各試験区分の合格者平均年齢は以下のとおりです。

	合格者平均年齢
応用情報技術者試験	28.7 歳
高度試験	
プロジェクトマネージャ試験	38.1 歳
データベーススペシャリスト試験	31.9 歳
エンベデッドシステムスペシャリスト試験	34.0 歳
情報セキュリティシステムスペシャリスト試験	34.3 歳
システム監査技術者試験	40.5 歳

応募者・受験者・合格者の推移等、統計に関する詳しい情報は、次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html

6. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を 7 月 13 日（月）から開始予定

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：山城）

IPA は、10 月 18 日（日）に実施する平成 27 年度秋期情報処理技術者試験（所管：経済産業省）の受験申込みの受付を 7 月 13 日（月）から開始します。受験の申込みは、郵便窓口やインターネットで行えます。申込方法によって締切日時が異なりますので注意してください。

■ 個人申込み

願書郵送申込み : 7 月 13 日（月）～ 8 月 10 日（月） 消印有効

インターネット申込み : 7 月 13 日（月）10 時～ 8 月 21 日（金）20 時

■ 団体経由申込み

7 月 13 日（月）～ 8 月 10 日（月）

※申込方法によって、締切時間が異なります。

実施する試験区分など、平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の詳細については次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_02annai/h27aki_exam.html

なお、今回の試験から、受験者が自らの担当業務や専門性に応じて自由に問題を選択できるよう、「応用情報技術者試験」午後試験における出題構成を変更します。

詳細は次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20150512.html>

i パス（IT パスポート試験）については、GBT 方式にて随時試験実施中です。申込方法などの詳細については次の URL をご覧ください。

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構 戦略企画部 企画・調査 G 笛木・中山 〒113-6591 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号 文京グリーンコートセンターオフィス TEL : 03-5978-7503 E-mail : spd-plan@ipa.go.jp
